

ジェンダー視点からみた 「JA活動に関する全国一斉調査」

国際婦人年（1975年）以降、女性の置かれた状況を改善するためには、その改善の足取りをリアルに把握することが重要な武器になるとして、統計の重要性が広く論じられるようになった（ジェンダー統計）。95年の第4回世界女性会議においても、あらゆる政策にジェンダー視点を盛り込む考え方を明確に示すとともに、性区分をもつ統計の整備を盛り込んでいる。

わが国においても、男女共同参画基本計画の中で統計調査等の充実をあげており、02年度には重点的に取り組んできたが、その実施状況を調査した男女共同参画会議も「性別区分」、例えば「リーダー等についての女性割合」を重視したとしている。

それでは、ジェンダー視点から「JAの活動に関する全国一斉調査」（全中）を見てみよう。最近時（02年4月）の調査結果が示す女性の現状は表の通りであり、このテンポでは3年前のJA全国大会で設定した目標（注）には到底及ばない。統計は改善の足取りをリアルに物語っていると言えよう。同時に、この表では同調査が開始された81年以降、女性の現状把握に関してどのよう

な設問をしているかを示したが、ここからは性別区分の統計が職員から始まり、組合員、役員、総代、参事へと広がり、02年度には管理職にも導入されていることが分かる。前述した国内外の動きを反映したのであろう。

ちなみに、「総合農協統計表」（農水省）では、女性議員の国会での質問が契機となり、役員は79年から、組合員は80年から性別区分しているが、それによる実態把握はJA運営への女性参画に目を向けさせることになった。さらには、前述したように統計が女性参画促進の武器となるので、女性参画を勧める上では、数値目標の設定に加えて、JAグループの統計全体をジェンダー視点にたって整備していくことが必要だと思われる。

（注）03年度末までに、女性割合を正組合員は25%以上、総代10%以上、合併JAの女性理事2名以上等
（根岸久子）

「JA活動に関する一斉調査」から女性の実態把握の推移と現状

		2002年			81年	84年	90年	96年
		総数(人)	うち女性(人)	女性比率(%)				
役員	理事	21,221	181	0.9	×	×	○	○
	監事	5,641	26	0.5	×	×	○	○
	経営管理委員	221	4	1.8	△	△	△	△
	うち常勤							
	理事	2,453	×	×	△	×	○	×
	監事	316	×	×	△	△	○	×
	経営管理委員	6	×	×	△	△	△	△
総代		367,207	9,047	2.5	△	△	○	○
職員	正職員	217,351	66,106	30.4	×	○	○	○
	うち参事	789	3	0.4	△	△	○	○
	うち管理職	41,701	2,441	5.9	△	△	△	△
組合	正組合員	5,153,087	732,164	14.2	×	×	○	○
	准組合員	3,801,636	784,639	20.6	×	×	○	○

△ — 設問なし、× — 性別区分なし